

2021年9月9日

国際航空専門学校
校長 埜口 裕之殿

学校関係者評価委員会 報告

学校関係者評価委員会
委員長 山下 奉利



2021年度学校関係者評価について、下記の通り評価結果を報告致します。

記

1.学校関係者評価委員

	氏名	所属
委員長	山下 奉利	学校法人浅野学園 監事
委員	海老名 巖	公益社団法人 日本航空技術協会 事務局長
委員	百田 寛	株式会社 JAL エンジニアリング 総務部 組織・人財グループ グループ長
委員	小池 隆	全日本空輸株式会社 整備センター業務推進部 総務チーム マネジャー
委員	足立 知	株式会社 JAL グランドサービス 総務部 人事採用グループ グループ長
委員	関 理恵	ANA エアポートサービス株式会社 人事部 人事課 マネジャー
委員	吉田 淳一	朝日航洋株式会社 航空事業本部 執行職
委員	山崎 一慶	多摩川エアロシステムズ株式会社 整備部 部長

2.事務局

	氏名	所属
事務局	埜口 裕之	国際航空専門学校 校長
事務局	下濱 悟	国際航空専門学校 管理本部 部長
事務局	山田 知良	国際航空専門学校 教務部 部長
事務局	岩田 高廣	国際航空専門学校 教務部 指定養成施設管理室長
事務局	増子 和久	国際航空専門学校 教務部 エアロサポート科 学科長
事務局	渡邊 昌利	国際航空専門学校 管理本部 業務部 部長
事務局	大野 恵	国際航空専門学校 管理本部 就職指導部就職指導課 課長
事務局	石川 麻里子	国際航空専門学校 管理本部 業務部広報課 課長

3.学校関係者評価委員会 開催日

2021年8月25日(水) 15:00~16:30 Zoom 使用によるオンライン会議

4.2021年度学校関係者評価委員会 評価結果

2020年度の自己評価は妥当と判断する。尚、詳細は別紙のとおり。

以上

別紙

(1) 学校関係者評価委員会の目的

学校関係者評価委員会は、文部科学省が認定する職業実践専門課程にある学校評価の一項目にあたります。

その目的については、教育理念である「豊かな人間性を備えた航空従事者の育成」を達成する為に、実際にどのような教育が行われているかを評価して頂く場になります。その評価にあたっては、学校重点施策に照らした教育活動・学校運営状況を視点に自己評価を行います。自己評価の結果、改善策が打ち出され、これをもとに教育理念の達成の為に様々な改善を行います。

学校関係者評価委員には、学校が行った自己評価結果及び改善策の評価をして頂くとともに、改善策等への助言をお願いするということになります。

(2) 学校運営方針及び重点施策説明（校長）

①学校状況

エアロサポート科ビジネスコースを設置し、学生は少ないですがスタートしております。

夏休み期間中に学生本人やご家族のコロナ感染がありました。8/23からの2学期をクリーンな状況で開始する為に、本校の全学生・全教職員を対象に15分程度で簡易的に検査ができる抗原検査を実施しました。夏休み中に罹患した学生以外は、学生も教職員も罹患患者なしという結果になりました。

対面が必要な実習は登校、それ以外の授業については可能な限りは原則オンラインという形で2学期の授業を開始しました。(9/12までの予定)

新たな取り組みとして資格を取得しないコースで、ドローンの講座を9月から開始します。

～ 経済産業省 動画視聴 ～

空飛ぶ車が現実になりつつあるということで、当校も時代に乗り遅れないように、新たな教育に取り組んでいます。

②学校運営方針

平成22年度から掲げており、今年度もこのとおりに進めています。

別紙「学校運営方針」参照

③2020年度 重点施策について

1. 整備士資格取得100%（指定養成施設）
2. より質の高い人材育成（指定養成施設外コース）
3. 教育内容の充実
4. 社会人としての心構えを徹底する
5. 選ばれる専門学校を目指す（学生募集）

(3) 2020 年度自己評価と対応

【質疑応答】

- 海老名委員： 2020 年度対応あるいは施策の結果が自己評価の点数だという理解でよろしいのでしょうか。
- 学 校： その通りでございます。
- 海老名委員： では、結果に 5 がついているものはそういう対策をとった結果 5 である、あるいは 4 がついているものは対策をとったがまだ不十分だ、そういう理解でよろしいでしょうか。
- 学 校： そういうご理解で結構です。
- 海老名委員： 4 でありながら特に言及がなかったということは、何か理由があるのでしょうか。他に 4 の項目が残っているのですが、何もないというのはあまり特記すべき事項がないという、そういうことでしょうか。
- 学 校： 評価については自己評価報告書の中に意味が記載されています。4 については課題があり取り組みが期待されるというもので、改善しなければならないというマストアイテムではありません。
- 海老名委員： 優先順位をつけ可能なところから対応しております。中には評価 5 がついた項目でも対応していく項目もあります。
- 海老名委員： 学校により評価のされ方は異なるとは思いますが、意見を求められる側としては、何故これが 5 なのか、もしくは何をもってこれを 4 として更に改善を目指しているのか、そこに大変興味がありました。点数のみが書かれた報告書では、その評価内容がわかりづらいと感じたのでご質問しました。
- 学 校： 貴重なご意見を参考に更に改善に努めていきたいと思えます。
- 百田委員： 学生の感染予防対策についてお聞かせ下さい。
- 学 校： いち早くフェイスシールドを作製し、各教室や会議室等に設置しました。
- 百田委員： ありがとうございます。先日も学校を訪問した際に、コロナ対策を行った施設を拝見させていただきました。
- 学 校： また抗原検査を実施し、校内の全員が今の時点ではコロナに感染していないということをして学生に意識をさせました。
- 山崎委員： 昨年度から iPad を導入され、オンライン授業の体制構築が行われてきたと説明があり、今年度も更に活用が進んでいるかと思われませんが、どの程度の座学授業がオンライン授業に対応できているのかを教えてください。
- 学 校： 緊急事態宣言が発出された場合、座学授業に関してはオンライン授業としておりますが、実習科目に限っては登校し対面授業を行っています。実習科目の為に対面で授業を行う際にはこまめな検温や教室の換気を行い、感染対策に十分に注意をするよう指導しております。
- 山崎委員： よくわかりました。ありがとうございました。

- 足立委員： オンライン授業は、コロナ禍における暫定的な対応なのでしょうか。それともコロナが終息した後も、カリキュラムとして継続する予定となっているのでしょうか。
- 学 校： オンライン授業は試行的な位置が強いかと思います。オンライン授業については学生や教職員へのアンケート調査を実施し、今後も継続的に行うかということに対応したいと思います。十分効果のあるオンライン授業ならば、今後も継続していきたいと考えております。
- 関委員： 昨年の緊急事態宣言後に急遽オンライン授業の体制を立ち上げ、オンライン授業開始半年ほど経過後に学生へアンケート調査を行いました。結果としては、顕著な偏りがありました。1年生はオンラインではなく友達との関わりを持つことができる対面授業を希望していましたが、2・3年生になり資格取得がメインになると、実技は仕方がないとしてもその他の学科授業に関しては、通学時間短縮の為オンライン授業の方が効果的だったという回答が多くありました。オンライン授業が学生の学力向上につながっているのかどうかを検証しながら、今後の知見として新しい教育に繋げていこうと思っています。
- 学 校： 今回のオンライン授業を開始するにあたっては、当然ながら在校生の保護者宛てに校長名で手紙をお出しして、ご理解を頂く体制をとっております。
- 関委員： 学校理念や教育目標は、学生が常に見ることができて意識できる状態になっているのでしょうか。また、本年度の重要目標に教育コンテンツを共有化し内容を更に充実させる、特に語学力の向上や時間厳守、挨拶を習慣づけさせるとありますが、オンライン授業を実施している中で具体的にどのような事を行っているのですか。
- 学 校： オンライン授業に限定した回答ですが、教育内容の充実に関しては、去年は初めてのオンライン授業ということで、授業内容はテキストに沿った授業内容を何とかカバーできる範囲でした。今年度は更にわかりやすくするために、オンライン授業で使用した資料の公開をするなど対応をしています。
- 関委員： 語学能力、特に英語については、TOEICの校内試験実施に対し積極的に受験する様、指導をしています。また、英語の授業でTOEIC演習を取り入れています。
- 吉田委員： 教育理念は、各教室に掲示をしています。
- 学校： わかりました。ありがとうございました。
- 吉田委員： セクシャルハラスメント等防止の為の方針を明確化するという記述がありますが、セクハラと同じようにパワーハラスメントも昨今問題になっております。
- 学校： 教官と学生の年齢差はかなりありますので、そういった問題はないのでしょうか。パワハラについては手元に詳しい資料がありませんので即答できませんが、モラハラ含めて考慮していきたいと思っています。
- 吉田委員： 資料を確認し項目に含まれていない場合は、資料を改訂したいと思います。
- 学校： セクシャルハラスメント等と記載されているのでその中に含まれていると思います。こういう問題は、一度起きてしまうとややこしい問題となるので、早めにご対応対処された方がよろしいかと思います。
- 吉田委員： また、起こす側と受け止める側の微妙な心の中の気持ちで扱いが変わってしまう事もあるので、企業でも一度起きると解決に長い時間がかかるというのを経験しています。
- 学校： 問題が起きる前に十分な対策を取られた方がよろしいかと思い、発言致しました。

学生に対する授業評価アンケート結果を拝見し、座学と実習で同じような項目の質問がありますが、未回答も入れて6つの選択項目がありますが、ほとんどの学生が「あてはまる」から「どちらとも言えない」に該当していますが、逆に「あてはまらない」や「あまりあてはまらない」と回答した学生は、実際にどういうことが原因でこのアンケート回答になっているのかという調査はされているのでしょうか。そして、改善に結びついているのでしょうか。また、そこまで踏み込んだアンケート調査になっているのでしょうか。

学 校： 学生アンケートの文章による回答項目から、教官や授業内容に問題があるという記述があります。そういう回答が、「あてはまらない」や「あまりあてはまらない」という回答になっているものと思っております。

吉田委員： よくわかりました。ありがとうございます。
重点施策の中に、「学生に対して社会人としての心構えを徹底する」と企業側としては非常に有難い話ではあるのですが、学生生活は長い学生で3年と短いもので学生としてしかできないことがあると思います。社会人と同等の扱いとするのは可哀そうではないかと感じます。学生は学生としての扱いも必要であると気に留めて頂けるとありがたく思います。

学 校： ありがとうございます。この項目は以前よりこの記載がある様です。体育祭の様に皆で楽しくできる時間と、厳しくしなければならぬ時間とメリハリをつける指導をしています。

吉田委員： 宜しくお願い致します。

小池委員： 保護者への成績通知は従来年1回より、昨年より年3回に増やしたとあります。成績は年3回程度評価するものと思いますが、今まで年1回だったのは何故でしょうか。変更するにあたっての理由はあったのでしょうか。また変更後、保護者から何かしらのご意見はあったのでしょうか。

昨年度の資格者養成数ですが、72名中71名ということで、1名不合格で再審査辞退と記載がありました。最後の1名はどうかならなかったのかと、個人的には思います。どうしても1名合格できなかった理由があるのでしょうか。

学 校： 成績通知についてですが、1年生は1学期末に保護者懇談会があるので、その時に学校での状況はお話しておりました。その他の学年については、保護者への直接の通知はしていなかったのが現状でございます。昨年度より、1年生以外でも学期末に学習状況をお知らせするというに変更しました。当校は3学期制ではありますが、学期末に科目の区切りがつくとは限りませんが、

年3回の通知をするということに致しました。

1名の不合格者については、我々も何とか資格を取得させたいと考えておりましたが、学生本人が資格取得に対する意欲を持てなかったということで、本来なら技能審査自体を受験させるのをどうするかという状況でした。技能審査は、技能審査員と調整の上、受験させてほしい、ただし、内容については正直に評価していただき、その結果は真摯に受け止めるという話はしておりました。

受験後、不合格科目があまりにも多すぎて再審査では対応しきれないと学生自身が十分理解し、再審査辞退ということになりました。

小池委員： ありがとうございます。

海老名委員： ドローンの講座を開設したと説明がありました。ドローンも範囲が広く、模型的な

ドローンから人が乗ることが出来るドローンまで大きさが様々ですが、どのようなドローンを想定しているのでしょうか。また、操縦のコースなのか整備のコースなのか、まだ世の中が色々どう展開していくかわからない中で、今何を始められたのか教えて下さい。

学 校： 今現在は、操縦の資格取得を目指すべく動いております。操縦資格については、それぞれ民間の免許という形になっていますので、資格を付与できる団体でドローン操縦者の2級という資格をとらせるように動いております。

具体的には、スカイピーク社と一緒に準備をすすめております。スカイピーク社とも話を進めているのですが、将来的には法制度が変更され操縦資格制度や機体認証制度、技能証明制度が制定されます。無人航空機から有人航空機の知見を活かせるような領域に近づいております。スカイピーク社は無人航空機の知見、我々学校は有人航空機の知見。その二つを併せ持ち、一番良い教育とはどのような教育かという話しをしつつ、学生には操縦資格を取得してもらおうと動いております。

海老名委員： ありがとうございます。埜口校長がおっしゃった様に、ドローンは日進月歩で技術が進歩しております。

日本国内においても航空と全く関係のない業界が進出してくると思います。航空を専門とされる貴校にはぜひとも常に情報の収集を行い、学内の先生方も専門の知識を取り入れ、人材の確保をするという様にドローンに関しては遅れを取ることなく攻めていていただきたいと思います。言わずもがなですが、これからはドローンに力を入れて頂けたらと感じております。よろしくお願い致します。

学 校： 海老名委員からのお話の通り、知見を持っているスカイピーク社と我々がタックを組んで動き出しております。我々は航空という知見がありますので、ぜひ日本航空技術協会様も一緒になって長く築き上げてきた知見をうまくドローンの世界にも持っていただければと思っております。

また整備士資格を取得できない学生もやはりおります。そういう学生に関しても、違う形で興味を持ち、社会に役立つような能力をもって社会に出てもらいたいと思っています。その一つとしてドローンに水を向けています。

海老名委員： ありがとうございます。

技術協会もそういう分野に進んで行かなければならないと感じ、人材を含めて検討しております。ぜひ、一緒にやっていたらと思います。よろしくお願い致します。

山下委員長： 多方面から貴重な意見が頂くことができましたと思います。ぜひ、この意見を学校でも有益な意見として活用頂ければと思います。

(4) 就職状況について

2020年度 126名卒業 126名就職内定

2021年度 111名卒業予定のところ97名内定を頂いており、87%の内定率です。

残り14~5名というところまで内定を頂いております。(8/24現在)

(5) 2021年度教育計画について

コロナの影響で学生募集活動が大きな影響を受けています。

11回予定していた学校説明会は今までに5回開催予定でしたが、対面での開催は2回の実施となっています。対面で実施できなかった学校説明会は、オンラインで実施しました。

その為、9/26に追加の進学相談会を予定しています。

9月からエアロサポート科にてインターンシップが予定されていますが、企業様の都合により延期となっております。その為、学内での授業をすすめることとしています。

TOEIC 学内試験は9/3・1/14の2回予定しています。

10月からは次年度の入学試験を7回予定しています。

(6) 各評価項目について、評価委員による審議

各項目とも評価レベルは妥当と判断する。

(7) 評価対象期間

自：2020年4月1日

至：2021年3月31日

(7) 実施方法、公表

学校関係者評価の実施にあたっては、学校関係者評価委員の皆様に「2020年度自己評価報告書」の結果について事務局より説明し、評価結果に対する意見を頂いた。頂いた意見は、本報告書として取りまとめ、今後の教育活動や学校運営の改善に活かし、教育水準の向上に努めることとし、ホームページ等で公表する。

以上